

農山漁村地域整備計画事後評価

1 計画の概要

計画の名称	青森の“強い畜産業創造プロジェクト”推進計画（3rdステージ）
計画策定主体	青森県
対象市町村	むつ市、つがる市、東通村、田子町、六ヶ所村
計画期間	令和2年度～令和6年度（5か年）
計画の目標	肉用牛及び乳用牛の主産地形成を図るため、未利用地及び低位利用地の草地開発整備により、自給飼料生産基盤の強化を図るとともに牛舎等の整備を進める。
定量的指標	指標の内容
	① 公共牧場の預託受け入れ可能頭数の増加（991頭→1,131頭） ② 整備対象地区における飼料作物の生産量の増加（10,780t→17,384t） ③ 自給飼料生産基盤及び利用施設の再編整備を行うこととし、2地区において計画策定を行う。

2 交付対象事業の進捗状況

事業名	事業型	地区名	事業実施主体	関係市町村	計画期間内の事業内容	工期	計画期間内の総事業費(千円)	進捗状況
農地整備事業	草地整備型	つがる北部	公益社団法人あおもり農業支援センター	つがる市	草地整備46.8ha、牛舎1棟、堆肥舎1棟、農機具等導入4台	R2～R3	361,000	完了
農地整備事業	草地整備型	和平	公益社団法人あおもり農業支援センター	田子町	草地整備25.4ha	R2～R6	95,728	完了
農地整備事業	畜産担い手総合整備型	むつ・東通	青森県	むつ市東通村	実施計画策定 1式	R2	1,000	令和2年度事業計画策定済み
農地整備事業	畜産担い手総合整備型	むつ・東通	公益社団法人あおもり農業支援センター	むつ市東通村	草地整備38.9ha、牛舎1棟、農機具等導入9台	R3～R6	404,052	次期計画（4thステージ）において令和7年度まで実施予定
農地整備事業	草地整備型	八森	青森県	六ヶ所村	実施計画策定 1式	R4	1,000	令和4年度事業計画策定済み
農地整備事業	草地整備型	八森	公益社団法人あおもり農業支援センター	六ヶ所村	草地整備38.2ha、避陰舎1棟	R5～R6	214,700	次期計画（4thステージ）において令和10年度まで実施予定
小計							1,077,480	

3 事業効果の発現状況

<ul style="list-style-type: none"> つがる北部地区は草地造成整備改良、牛舎及び堆肥舎の整備により、預託可能頭数の増加及び飼料自給率の向上が図られた。 和平地区は草地整備改良及び隔障物整備により、預託可能頭数の増加及び飼料自給率の向上が図られた。 むつ・東通地区は計画期間内において事業計画策定、草地・施設整備及び機械導入を行い、飼料基盤の確保と飼料自給率の向上を図ってきた。 八森地区は事業計画策定と草地造成整備が当計画に位置付けられ、工事を実施し、飼料基盤の確保と飼料自給率の向上を図ってきた。

4 整備計画期間内における定量的指標の実現状況

内容	目標値	実績値	達成率
① 公共牧場の預託受け入れ可能頭数の増加	1,131頭	1,131頭	100%
② 整備対象地区における飼料作物の生産量の増加	17,384t	15,993t	92%
③ 自給飼料生産基盤及び利用施設の再編整備を行うための計画策定の実施	2地区	2地区	100%

● 整備計画期間内における定量的指標の目標に対する実績は92%～100%となっており、概ね達成したものと評価できる。
● 実績が目標に及ばなかった要因は、急傾斜草地の施工方法の検討により整備が遅延したためであり、次期計画において引き続き目標達成を目指す。

5 今後の方針

● むつ・東通地区及び八森地区は、本計画の期間終了後も事業を継続することから、来年度以降に整備を予定している草地整備改良、牛舎及び堆肥舎の整備については、次期計画に位置づけ整備を進めていく。

6 第三者の意見

<p>● 県内の畜産物生産は、輸入穀物の生産状況や為替相場などの世界情勢に大きく影響されている。こうした中で、県産の自給飼料を生産拡大することは、本県の酪農や肉用牛生産を維持・拡大するための重要な条件となっており、今計画期間中に、およそ150ヘクタールの草地が整備されたことの意義は大きい。</p> <p>● 国内の人口減少に伴い、特に、地方における人材の確保が困難になっている状況にあって、生産者個々の牛を預託できる牧場や牛舎等の施設が整備されたことは、人材不足に対応する有効な取組と考える。</p> <p>● 今計画期間で事業を実施した地域は、津軽、三八、上北、下北と県内広域にわたっており、地域間バランスがとれていることは、評価できる。</p> <p>● 現在も配合飼料をはじめとする生産資材の高騰や、人材確保が困難な状況が続いており、本事業で整備された施設が有効に活用されることを期待する。また、今後も本事業を活用し、草地畜産基盤を計画的に整備していくことが本県の畜産振興の鍵を握っていると考えられるため、引き続き、県が実施する重要な事業として位置づけし、草地や施設等の整備を推進してほしい。</p> <p>● 整備計画期間内における定量的指標の目標値に対し、実績は概ね達成と評価。</p> <p>● 気候変動による自給飼料生産への影響を懸念。整備遅延の要因となった急傾斜草地の施工方法の検討を適切に行い、自給飼料生産量の目標達成を期待。</p> <p>● 牛舎整備は、冬季飼養を目的としており、近隣農家の頭数増頭などに貢献できると考える。公共牧場の利用数が高い牧場の特徴として、管理人、通年預託（特に冬季飼養）、種付けの3つがあげられる。この1つを達成するためにも、有効活用してほしい。</p> <p>● 多くの草地整備（造成や更新）は、自給飼料基盤として、地域に貢献できると考えられるので、積極的に行っているようで非常に良い。しかし、近年、多年生寒地型牧草地を作っても、すぐに（利用2年目には）荒廃している場合が見られる。1つは、土壌pHの改良をしない、または不足で、低いままだと、播種直後は良くても、2年後には荒れてしまう。費用はかなりかかるが、土壌0-5cm深だけでも、土壌pHを6-6.5にするように土壌改良資材を入れることが重要。特に、4.5～5では、牧草を播く意味はなく、5～5.5でも厳しい。もう一つは、採草地の場合、適期刈りや施肥不足も見られる。だれが作業をするのか、資材の購入は可能かを確認する必要がある。いずれも、費用がかかり、本事業とは別になるとは思うが、適切な管理ができれば、効果が活かされる。場所を絞ってでも、見本として、良い草地の整備・管理が行われるよう、期待する。</p>
--